

しづのまるやまこぶん 平成 28 年度 史跡^{しづのまるやまこぶん}渋野丸山古墳発掘調査現地説明会

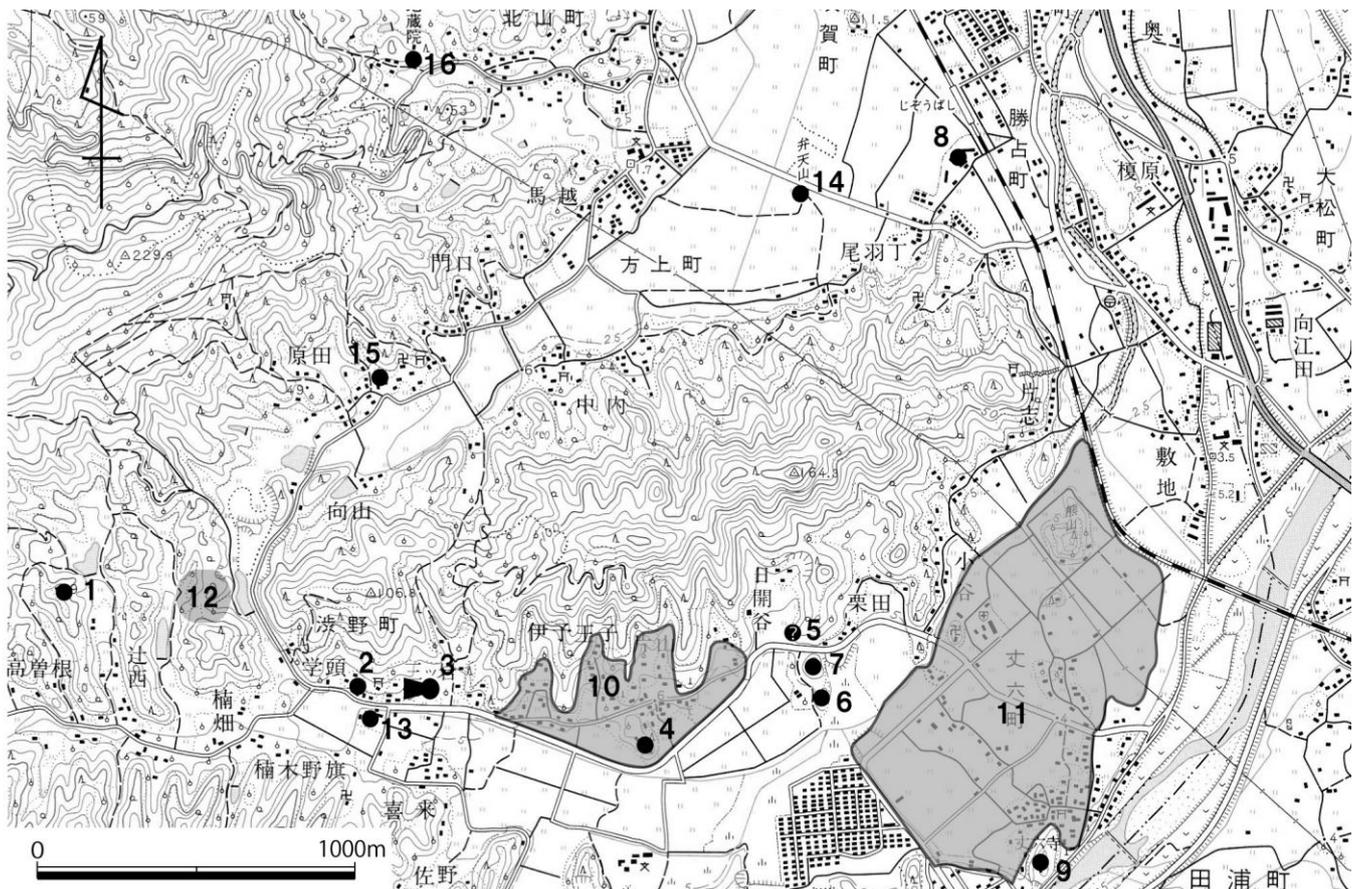
徳島市教育委員会 社会教育課

日時：平成 28 年 12 月 17 日（土）10:00～12:00

場所：徳島県徳島市渋野町三ツ岩・学頭（渋野丸山古墳）

1 渋野丸山古墳とは

渋野丸山古墳は徳島市渋野町三ツ岩・学頭^{み いわ がくとう}に所在する県内最大の前方後円墳^{ぜんほうこうえんふん}です。大正年間に郷土史家によって発見され、昭和 28 年には新宮塚古墳^{しんぐうづか}や天王の森古墳^{てんのう もり}など周辺の古墳群とあわせて「渋野の古墳」として県史跡に指定されました。



- 1 (伝)経塚 2 天王の森古墳 3 渋野丸山古墳 4 新宮塚古墳 5 花折塚古墳(所在不明)
6 マンジョ塚古墳(消滅) 7 マンジョ塚2号墳 8 鶴島山古墳群(消滅) 9 丈六古墳(消滅) 10 渋野遺跡
11 丈六遺跡 12 徳島市総合動植物公園 13 渋野公民館 14 弁天山 15 神光寺 16 東海寺

図1 渋野丸山古墳と周辺の史跡・施設

古墳は後世の開墾や造成によって一部が削平され、墳丘の一段目と古墳の周りを囲んだ濠も現在は完全に埋没してしまっていますが、徳島市が平成 17 年度までに行った発掘調査により、造られた当初の規模は全長 105m、周濠を含めると 118m に復元できることがわかりました。また、古墳は斜面を葺石と呼ばれる石で覆い三段築成と呼ばれる三段の階段状に造られていたことや、南側には「造出」と呼ばれる壇状の高まりがあったということがわかっています。また、墳丘からは円筒埴輪（土管状の埴輪）が並んだ状態で出土したほか、家や武器・武具などをかたどった形象埴輪の破片も見つかっています。これらの特徴から、渋野丸山古墳は当時の政権の中心であった畿内地方の巨大古墳の築造方法の影響を大きく受けているということがわかりました。

平成 21 年 2 月にはその歴史的価値が認められ国の史跡に指定されましたが、草木が生い茂り古墳の形がわかりにくくなっているほか、各所に崩落も見られます。徳島市では、今後來訪者が渋野丸山古墳の特徴を学びながら安全に見学できるように整備していくため、検討委員会整備や発掘方法についての検討を行いながら、築造当時の姿を解明するための発掘調査や土地の公有化を行っています。

2 平成 28 年度の調査成果について

今年度は、古墳の南側に設けられた「造出」の規模や構造を明らかにするための調査を平成 28 年 10 月から行っています。造出とは、古墳時代中期（5 世紀頃）以降の大型前方後円墳の側面に見られる壇状の高まりで、その性格については諸説ありますが、近年では埋葬後の祭祀を行った場所という説が有力です。史跡指定以前に行われた確認調査で、渋野丸山古墳の南側くびれ部に造出があることはわかっていましたが、規模や構造についてはわからないままでした。

調査の結果、渋野丸山古墳の造出は最下段面で東西に約 12m、南北で約 5 m の方形を呈するということがわかりました。造出の斜面下半には葺石が残っており、これまでの調査でも確認されたように、まず比較的大きな基底石（根石）

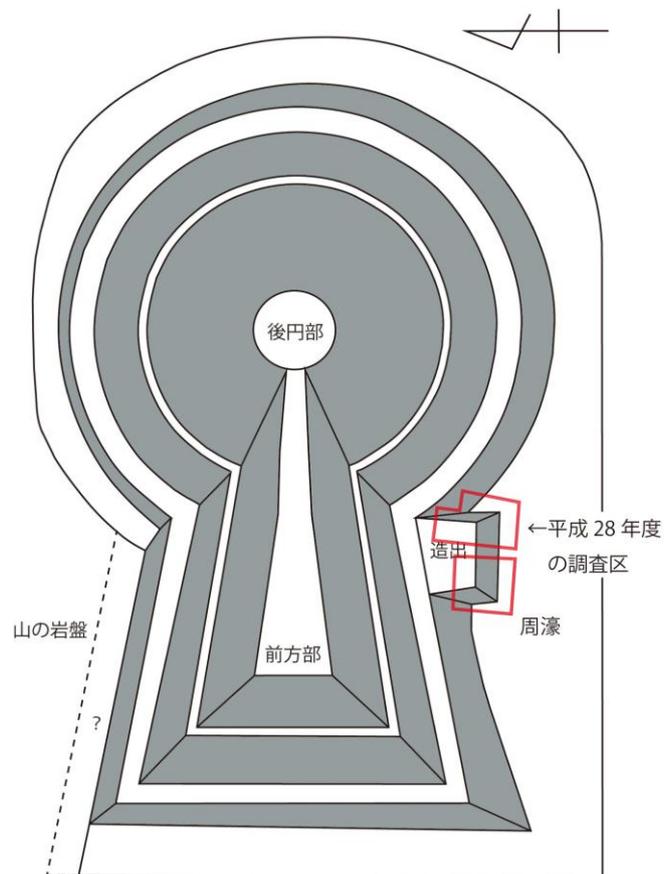


図 2 渋野丸山古墳模式図

を置いた上に、小口を向けた石材を規則的に積むという洪野丸山古墳独特の積み方をしています。葺石に使用された石材は、古墳の近隣で採れる石英質の結晶片岩（石英質片岩）ですが、一部に眉山周辺に特徴的な青色の結晶片石（緑色片岩）も使われています。造出の上の平坦面は、中近世の開墾によって30 cm程度削られています。調査区中央アゼの北東で円筒埴輪が2体立った状態で出土しており、これらは平坦面に並べられた埴輪列の一部がころうじて残ったものと考えられます。これらの埴輪が立つ位置を平坦面と考えると、築造当時の造出の高さは約2 mあったと推定できます。また土層の観察から、地山を削り出した上に盛土をして造出が整形されていることもわかりました。

また、周濠や崩れた葺石の中からは円筒埴輪、船形埴輪や家形埴輪などの形象埴輪の破片や、小型丸底壺や高杯、箆形土器などが見つかりましたが、中央アゼ北東で出土した円筒埴輪以外に築造当初の位置で見つかったものではありませんでした。しかし、これらの出土遺物からは、造出には円筒埴輪の列がめぐっていただけでなく、土器による食物供献や、船や家の形を模した埴輪を使った祭祀も行われていたということがわかります。船形埴輪は準構造船を模した船首やピボット（櫂を掛ける突起部分）、船底などの破片が出土しており、県内では洪野丸山古墳でしか確認されていません。箆形土器は実際の箆を粘土に押し当てて成形した型押し土器で、畿内の同時期の古墳からは出土していますが、四国の古墳からは初めて見つかったものです。

今回の成果をこれまでの発掘調査成果とあわせることで、洪野丸山古墳の全体の形状や築造方法がより明確になりました。これらの成果は今後進めていく古墳の保存整備事業に活かしていく予定です。

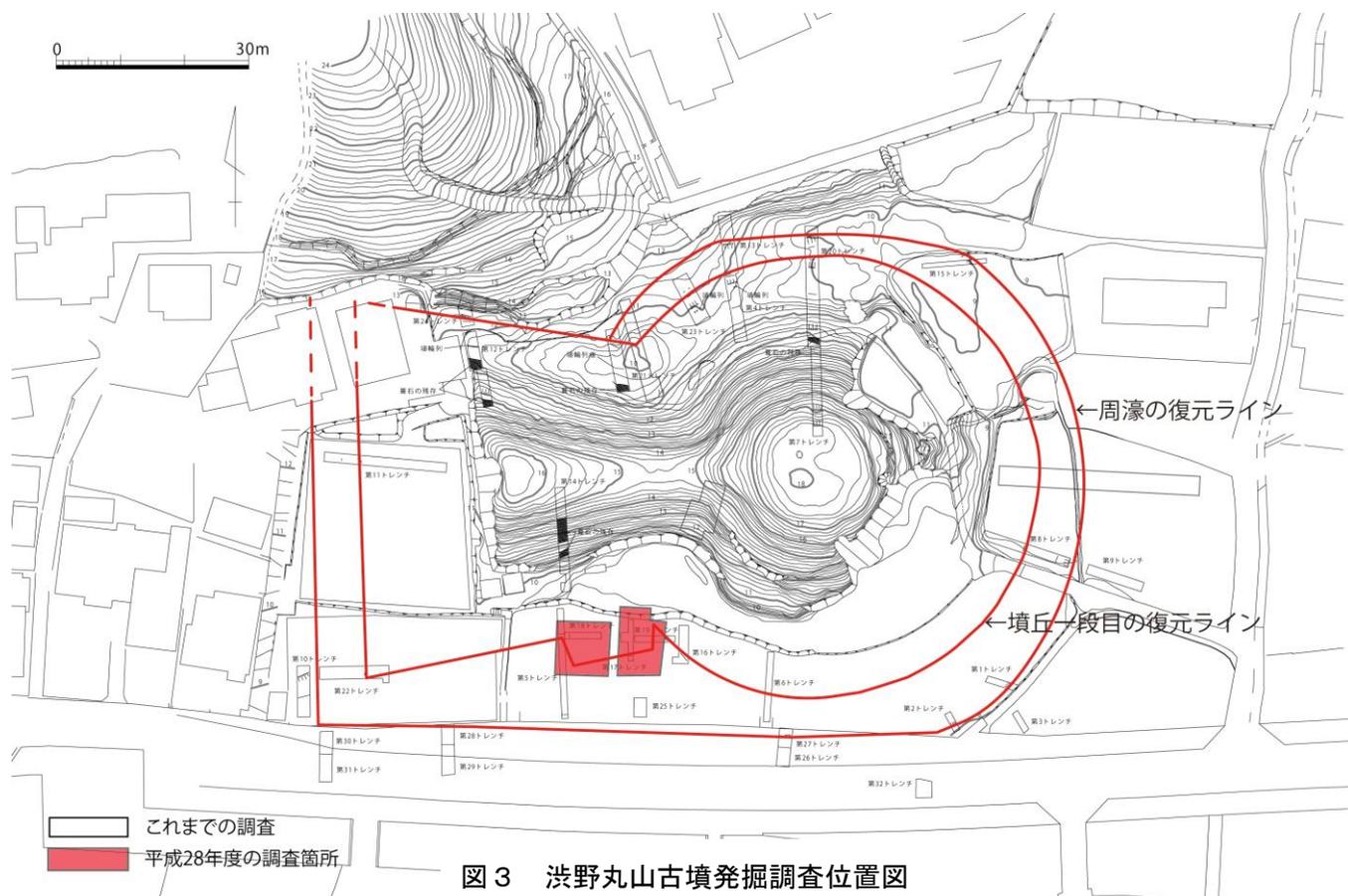


図3 洪野丸山古墳発掘調査位置図



図4 調査区遠景

平成28年度の調査成果については、以下のようにまとめることができます

- 1 渋野丸山古墳の造出の全貌が初めて明らかになった
- 2 造出周辺における笊形土器・小型丸底壺・高杯などの土器や、船形埴輪・家形埴輪などの形象埴輪による祭祀の一端がうかがえた

徳島市教育委員会
社会教育課 文化財係
(TEL088-621-5419)